



# 大和川の今後の取組について(国管理区間)

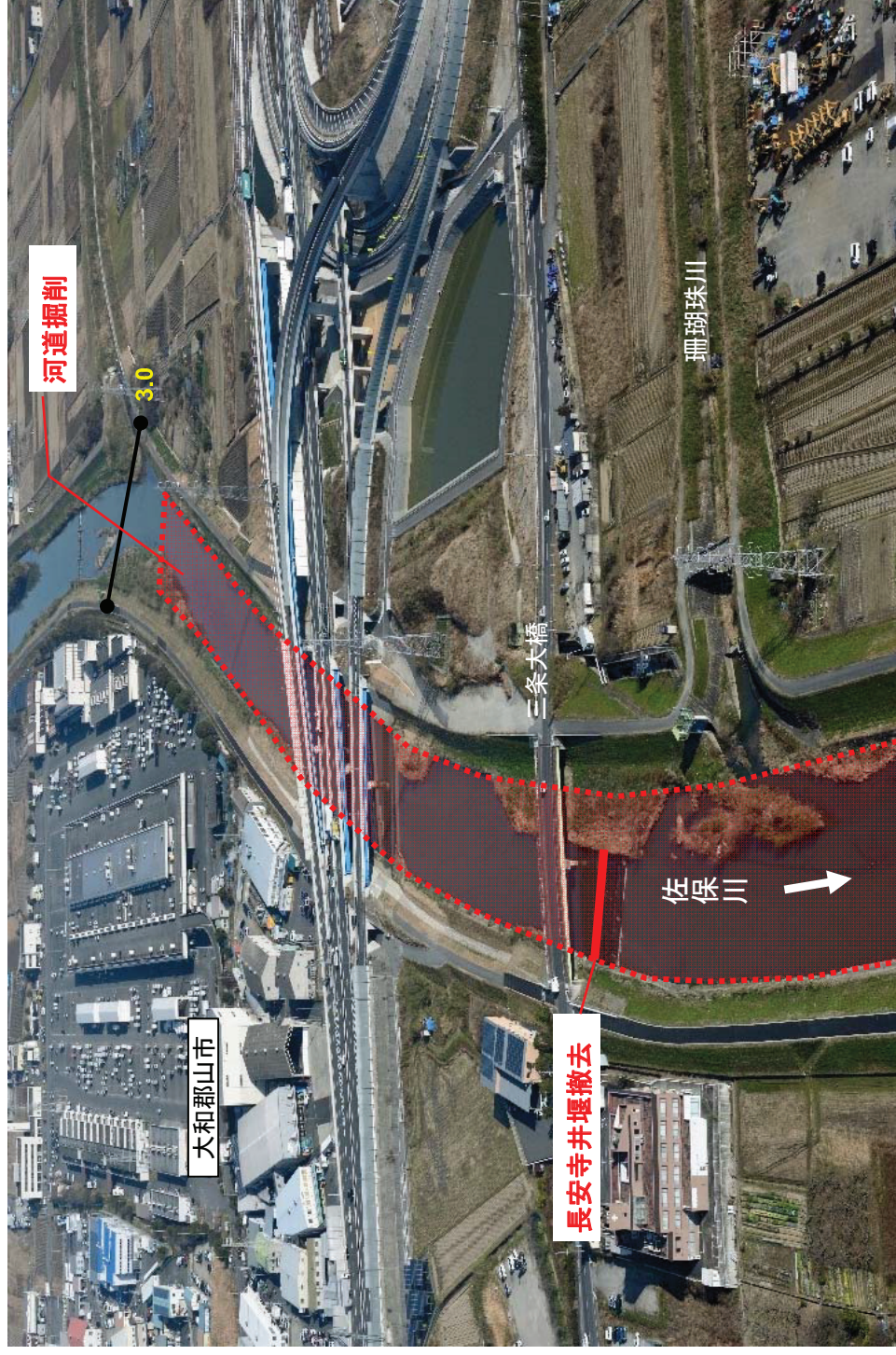
# 大和川中流部での河川改修事業

溢水被害のあった範囲の河道掘削や遊水地の整備等を実施。



※施工範囲は、現時点の予定であり、今後の進捗により変更となる場合があります。

長安寺地区において、河道掘削や長安寺井堰の撤去工事等を実施。



※施工範囲は、現時点の予定であり、今後の進捗により変更となる場合があります。

# 危機管理型水位計の概要

## 【目的】

洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を開発することで、これまで水位計の無かった河川や地先レベルでのきめ細やかな水位把握が必要な河川への水位計の普及を促進し、水位観測網の充実を図る。

## 【設置箇所】

これまでは各水位計が長い区間を受け持ち、観測所地点の水位から各地点の水位を推定していたが、集落や氾濫ブロック単位で「氾濫の危険度がどの程度切迫しているのか」を直接的には把握できていなかった。今回は、

- ①「堤防高さや川幅などから、相対的に氾濫が発生しやすい箇所」
- ②「氾濫により行政施設・病院等の重要施設が浸水する可能性が高い箇所」
- ③「支川合流部など、既設水位計だけでは実際の水位が捉えにくい箇所」などを対象として抽出し、

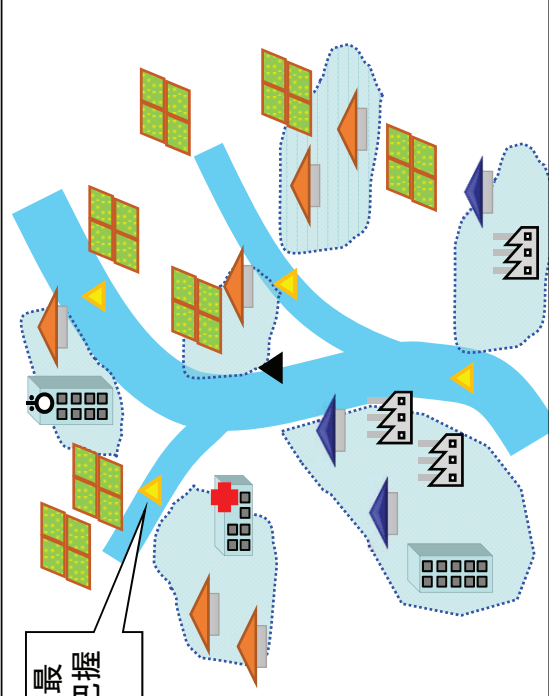
既設水位計の配置や現地状況等を踏まえて、危機管理型水位計の配置箇所を選定。

国管理河川においては、平成30年度中に水位計の設置を進めることとしている。

※【氾濫ブロック】一連の浸水区域のうち、河川や山などの地形及び構造物等により区分されるひとまとまりの氾濫区域のこと。

## 【設置イメージ】

増設された水位計によって最寄りの河川の状況を直接把握することが可能



▲ 既設の水位計  
▲ 新設の水位計  
■ 想定される浸水範囲

## 大和川水系（国管理）

### 危機管理型水位計 設置予定数

大和川：30箇所

曾我川：4箇所

佐保川：7箇所

**水系合計：41箇所**

※設置数は、自治体や地権者・橋梁管理者等との調整の結果、増減することがあります

# 緊急速報メールを活用した洪水情報のプッシュ型配信

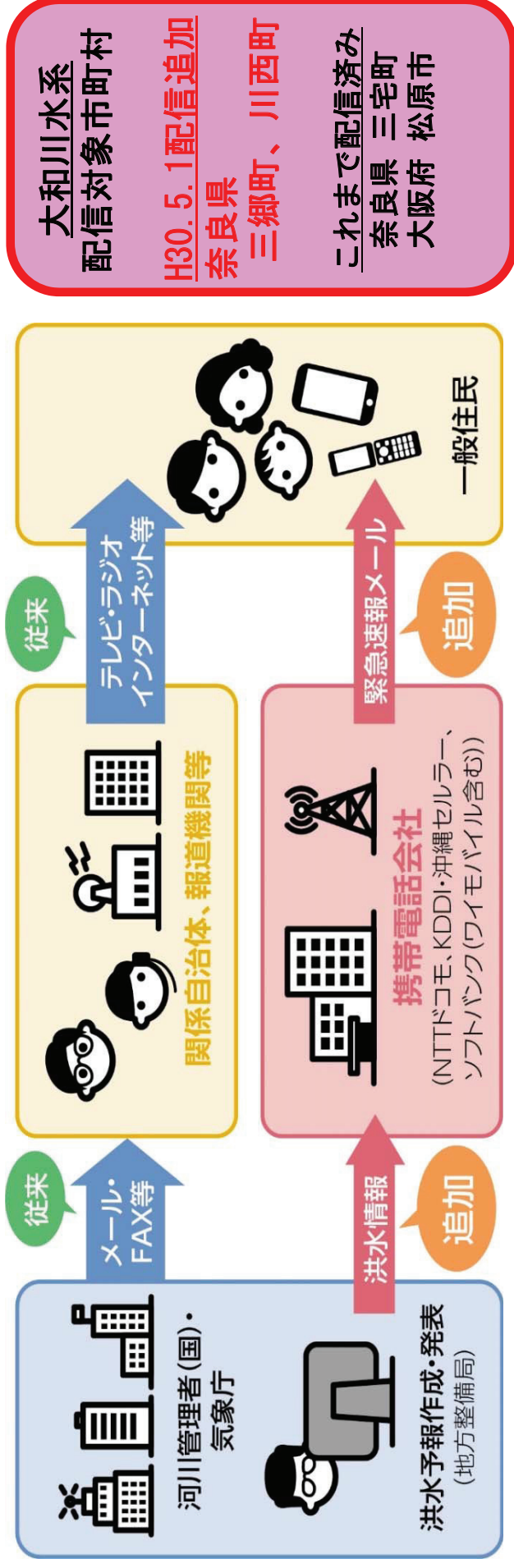
～平成30年5月1日から、10水系73市町村に洪水情報の配信エリアを拡大します～

国土交通省では、「水防災意識社会 再構築ビジョン」のもと、洪水時に住民の主体的な避難を促進するため、平成28年9月から、国が管理する2河川(鬼怒川、肱川)の沿川市町村(茨城県常総市、愛媛県大洲市)において緊急速報メールを活用した洪水情報※1のプッシュ型配信※2に取り組んでいます。

近畿地方整備局では、平成30年5月1日から国管理河川10水系73市町村に配信エリアを拡大します。

※1 「洪水情報」とは、洪水予報指定河川の氾濫危険情報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

※2 「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。



## 洪水情報のプッシュ型配信イメージ

※今回のメール配信は、国土交通省が発信元となり、携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用して洪水情報を携帯電話ユーザーへ周知するものであり、洪水時に住民の主体的な避難を促進する取組みとして国土交通省が実施するものです。